

MRI 検査を受ける予定のある方へ

～注意していただくことと、ご協力をお願い～

愛媛県立中央病院

当院では患者さんの安全と装置の安定稼働のため、可能な限り化粧類は落として検査を行うこととしています。

また、MRI 対応でない金属、装置がある場合は検査を受けることができません。

下記の内容をよく読んでいただき、ご不明な点につきましては診察時にお尋ねいただくか、または各診療科にご連絡ください。

【重要注意事項】

次のものは健康被害や体内・外装置の故障、破損、やけどの危険があります。ある場合は検査を受けられないことがあります。検査を依頼した診療科に相談してください。

- ・ペースメーカー・除細動器・人工内耳、神経刺激装置などの体内電子機器
- ・MRI 対応ではない体内金属類
- ・タトゥー・刺青
- ・磁石式義歯（着脱が弱くなる可能性があります。施行医療機関にご確認ください。）
- ・歯の矯正金具（検査可能であるか施行医療機関にご確認ください。）
- ・その他の MRI 対応でない金属が体内外にある場合

次のものは、やけどや、MRI 装置の損傷、故障につながったり、診断画像に影響がでたりする可能性があります。

お化粧類はつけてこないか、お直しができるよう準備をしてきてください。また、事前に落とす必要があるもの（ジェルネイルなど）については取り除いてから来院してください。

×外してこないと検査できないもの

検査前に落とすことができないため、あらかじめ落としてから来院してください。

- ・ジェルネイル、マグネットネイル、ミラーネイル
- ・その他、爪に硬化させて装飾するもの
- ・増毛パウダー

×検査前に必ず落として（外して）もらうもの

- ・つけまつげ・マスカラ・アイシャドウなどの化粧類
- ・マニキュア・つけ爪
- ・カラーコンタクト
- ・その他、金属成分が含まれる恐れのあるもの
- ・金属糸の入った下着・保温用下着など
- ・リブレ・カイロ・湿布・ニトロダーム TTS・ニコチネル TTS・エレキバンなどの貼り薬

上記以外でも当院で危険と判断したものは取り外していただきます。

Q.なぜそのまま検査を受けることができないのでしょうか？

A.化粧品類には様々な成分が含まれていますが、MRI 検査において問題となるのは金属成分です。

ジェルネイルのパーツやラメにも多くの金属が使用されています。

金属類を付けたまま検査を受けると以下のようなことが考えられます。

① 電磁波によるやけど

MRI 検査で使用する電磁波によって化粧をしている部分がやけどを負ったという事例が報告されています。特に「まぶた」のように皮膚の薄い部分はやけどをしやすくなっています。

また、検査部位ではない離れた部分のやけどの報告もありますので、当院では検査部位に限らず化粧を落としてもらっています。

② 強力な磁場による装置への影響と、持ちこんだ物の破損

磁石に引っ付く性質の成分が含まれる場合、その成分が体から離れ、装置に吸着する場合があります。

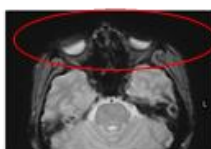
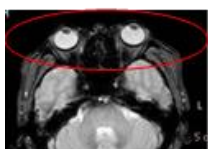
MRI 検査は均一な磁場を保つ必要がありますが、吸着したものによって磁場が乱れ、診断画像にノイズが入る可能性があります。

細かいものであれば取り除くことができず、その後の検査に影響が出る可能性もあります。

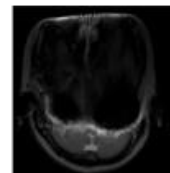
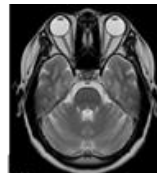
また、持ち込んだ物（入れ歯など）が装置に飛んでいき、破損することもあります。

③ 診断への影響

金属成分がついている部分は磁場が乱れるため、画像に影響が出ます。そのため診断に支障をきたすことがあります。



マスカラ 無し / 有り



入れ歯 無し / 有り

安全に検査を受けていただくため、ご理解とご協力をお願いいたします。